スライド説明会資料　　20140419（土）

鈴鹿市考古博物館

「磐城山遺跡６次・宮ノ前遺跡２次」

Ⅰ　磐城山遺跡６次

１　発掘調査について

- （１期）平成 25 年８月６日～平成 25 年 12 月 24 日
- （２期）平成 26 年３月６日～平成 26 年３月 25 日（第７次調査へ継続）
- 鈴鹿市木田町字上條
- 農地改良工事に係る事前の発掘調査
- 326 ㎡

２　検出遺構

- 竪穴住居 23 棟以上（弥生時代後期，古墳時代後期）
- 掘立柱建物１棟（室町時代か？）
- 土坑墓２基（室町時代）

　※　その他柱穴，溝多数

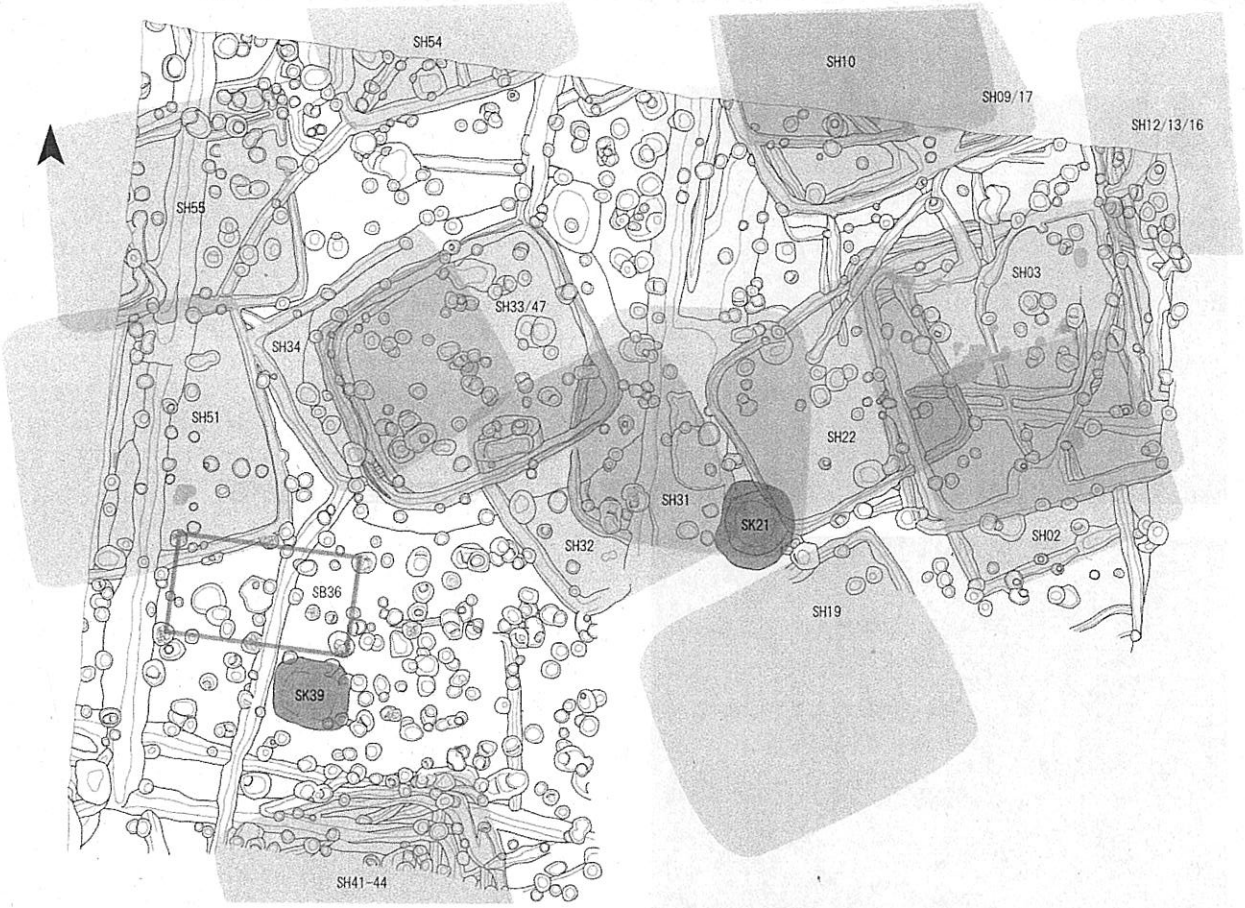


図１　第６次遺構配置図（縮尺任意）

3　出土遺物

・　テンバコ　45 箱

・　弥生土器（壷，甕，高杯），古墳時代の土師器・須恵器（杯，甕，壷）が主体

※　一部，室町時代の土師器（皿，羽釜，茶釜）も出土

破片が多く，復元できる土器は少ない

4　調査の成果

これまで平成 22 年度の第 3 次調査から 4 ヵ年継続して調査を進めてきました。それ以前の，第 1･2 次調査区と併せると，竪穴住居は 150 棟を越える数が確認されています。その時期は，ほぼ弥生時代後期と古墳時代後期の 2 つの時期に限定できますが，その密度は県内でも有数です。

磐城山遺跡では，この竪穴住居群の上に 7～8 世紀頃の古代の掘立柱建物が重複し，さらにその上に中世後半の木田城跡関係の遺構（掘立柱建物，区画溝，土坑墓など）が重なっています。

①　弥生時代後期の集落→　②古墳時代後期の集落→　③古代の集落（ないし官衙的な施設）→　④中世の木田城跡の関連施設

調査には習熟度が必要で簡単なものではありませんが，平成 26 年度も第 7 次調査として既に調査を開始しています。相変わらず見つかっているのは，弥生と古墳の竪穴住居でその数はますます増加しています。次年度以降もさらに西方へ調査区を広げていく予定ですが，西側ほど古代の遺構が多く見つかる傾向があります。今後は，少し違った様子を報告できるようになるかもしれません。

写真 1　6 次調査区全景（西から）

写真 2　6-2 次（7 次）調査区全景（北東から）

Ⅱ　宮ノ前遺跡（第２次）

１　発掘調査について

- 平成 25 年 4 月 10 日～平成 25 年 8 月 9 日
- 鈴鹿市十宮三丁目
- 宅地造成工事に係る事前の発掘調査
- 465 ㎡（新たに道路として建設される部分のみ対象）

２　検出遺構

- 溝 8 条，竪穴住居の可能性ある落ち込み 2 棟程度
- 古墳時代前期 1 条，古墳時代後期 3 条，飛鳥～奈良時代 1 条，鎌倉時代 1 条，不明 2 条

　※ 最大の成果は，古墳時代後期の SR0201 とした大溝の確認
　　→幅が約 4～5m で，深さは 0.5～0.9m ある。60m 程直線的にのびて，南北両端で直角に折れ曲がり，調査区外へと続く。

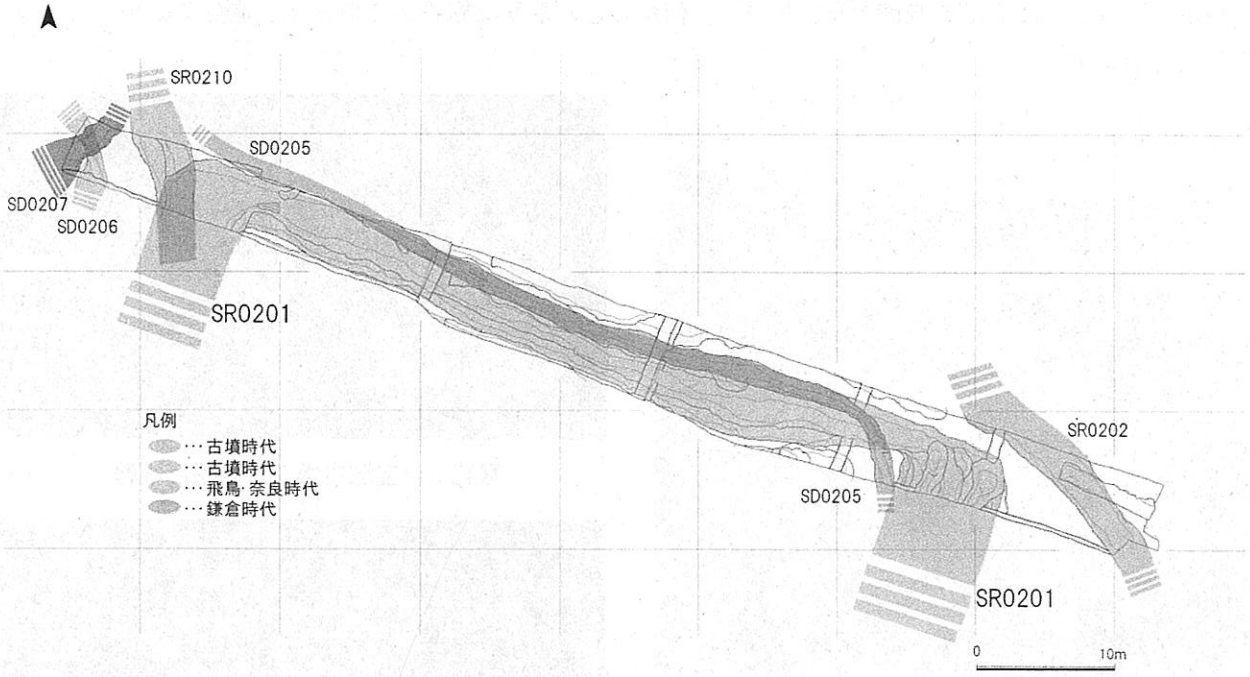


図２　第２次遺構配置図（縮尺任意）

写真３　大溝 SR0201 完掘（東から）

3　出土遺物

・ テンバコ　218 箱

・ 古墳時代の土師器（甕，椀，皿）や須恵器（杯，甕，壷，）が主体

※　一部，弥生土器や鎌倉時代の土師器（山茶碗や羽釜），土製品（土馬？），鉄滓も出土
SR0201 と SR0202 から出土した土器は残りがよく，完形のものもある

4　調査の成果

今回見つかった SR0201 は，60m×60mに区画するような溝である可能性が高い。このような形状の溝は，しばしば豪族者の居館を囲む溝ではないかと推定されます。あるいはモガリの施設を囲む溝や，水の祭祀を行う施設を囲う溝だとの意見等もあります。いずれにしても，区画された内部には何らかの重要な施設があることは間違いないものと思われます。

また，この溝は 6 世紀頃に埋没しています。この頃の河曲地区の豪族には，大鹿（おおか）氏がいたとされています。先に紹介した磐城山遺跡も 6 世紀の集落跡で，宮ノ前遺跡と同時期に存在した可能性が高いです。一般的な集落は木田町等の丘陵の上に位置し，何かしらの重要な施設がこの宮ノ前遺跡に築かれたものと考えられます。

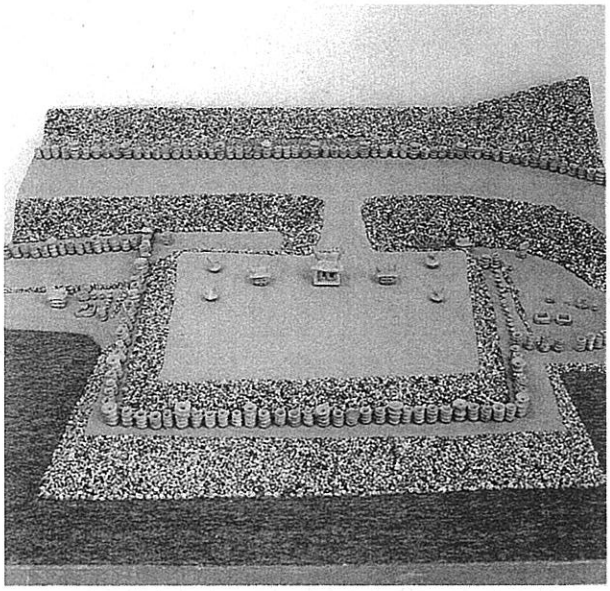


写真 4　松阪市宝塚古墳の模式

写真 5　宝塚古墳　2 号家形埴輪

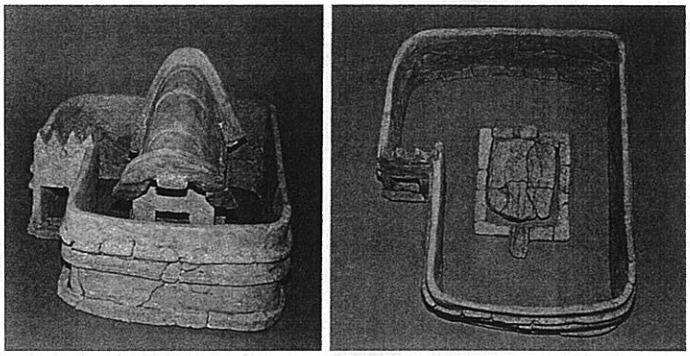


写真 6　宝塚古墳　3 号囲形埴輪

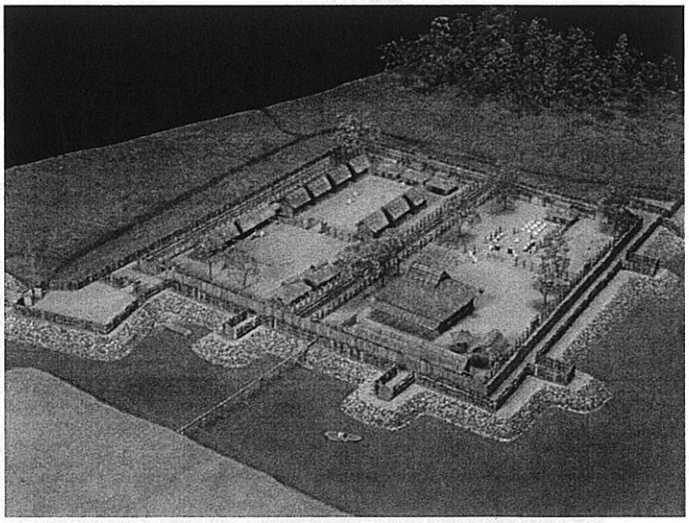
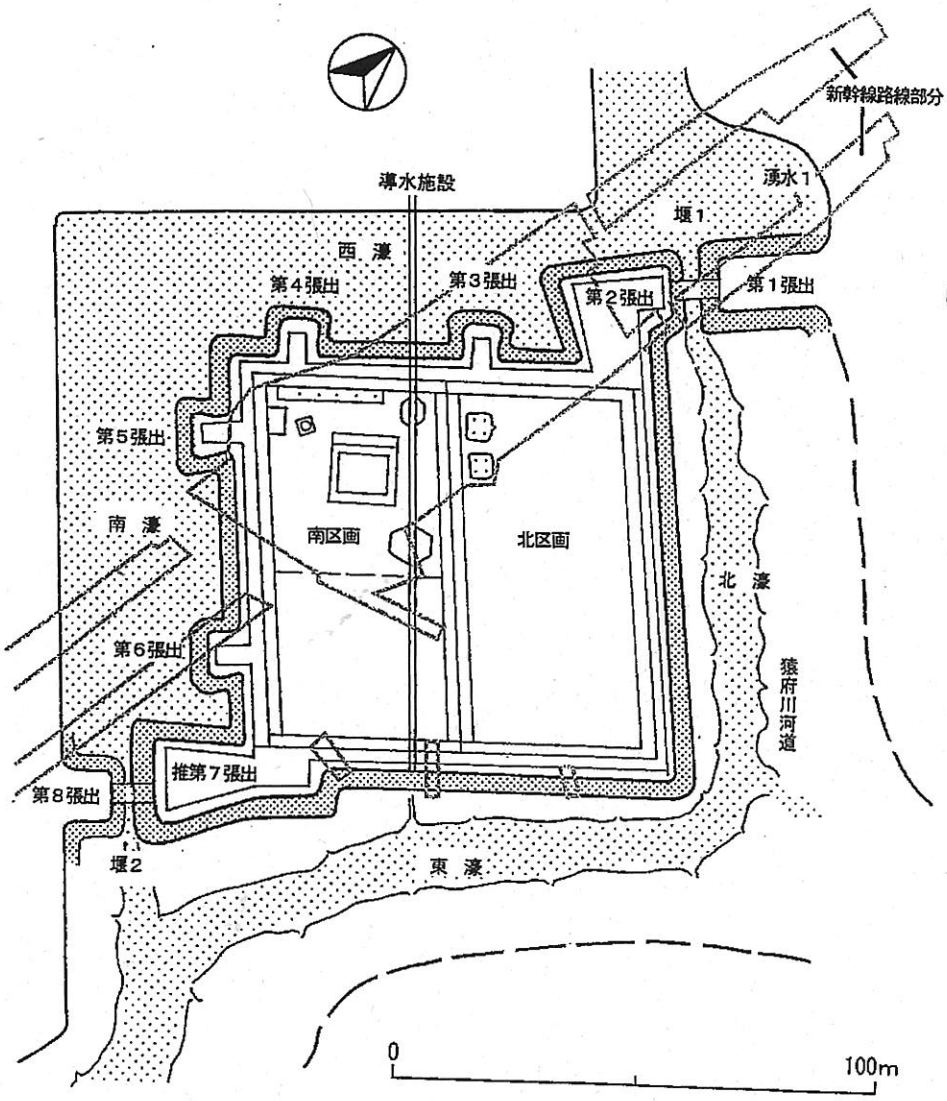


写真 7　群馬県三ッ寺 I 遺跡復元模型

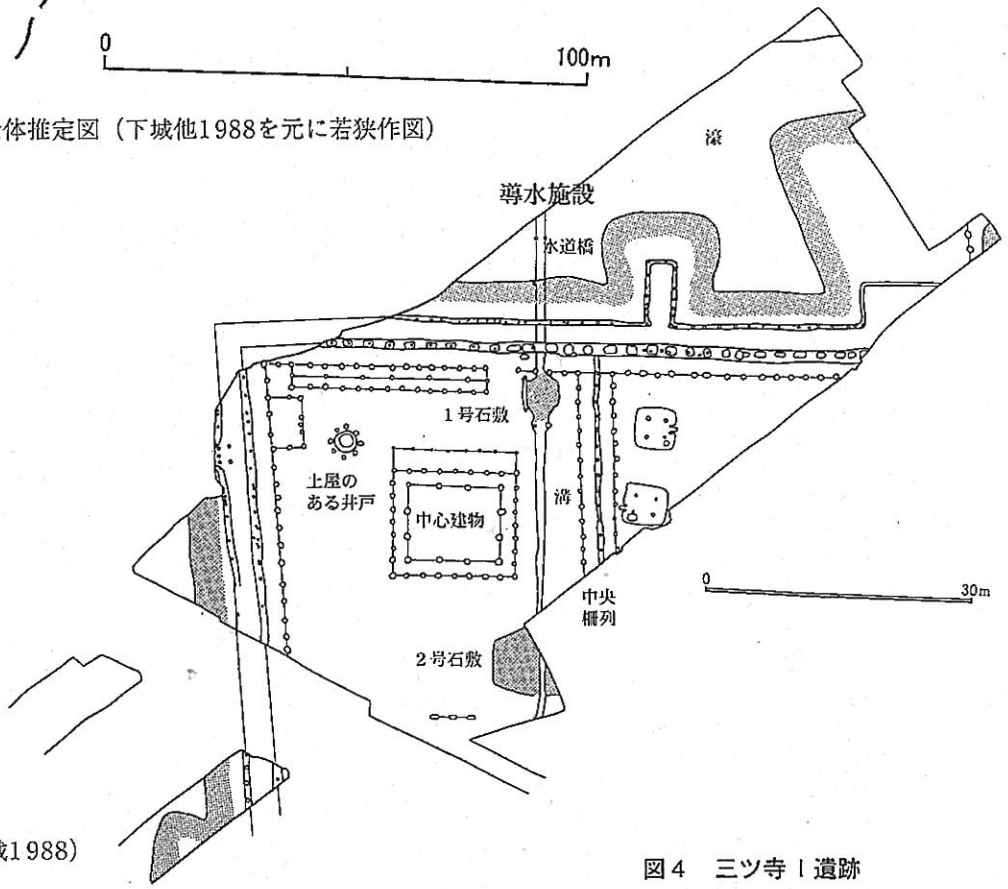
参考資料



3．三ツ寺Ⅰ遺跡の全体推定図（下城他1988を元に若狭作図）

1．三ツ寺Ⅰ遺跡の位置

2．居館と墓域の関係



4．主要部の拡大図（下城1988）

図4　三ツ寺Ⅰ遺跡

若狭　徹　2003「造り出しの埴輪列と人物埴輪―水の祭祀と首長居館を媒介にして―」『関東の埴輪と宝塚古墳―まつりの移り変わり―』第4回松阪はにわシンポジウム　から引用